

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成27年9月28日

計画の名称	22 酒田市中心市街地へのアクセス改善と賑わいを創出する社会資本整備（防災・安全）			
計画の期間	平成21年度～平成25年度（5年間）	交付対象	酒田市	
計画の目標				

狭隘な市道の整備や修繕を行うことにより、有効幅員の拡幅や安全性を高め、特に冬期間の中心市街地へのアクセス改善や年間を通して観光施設等の賑わいを創出する。  
 老朽化する道路施設について予防保全による計画的な修繕を行うことにより、道路交通の安全・安心を確保する。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路台帳の実延長調書より総市道延長に対する有効幅員5m以上の延長で割合を算出し、75.7% (H21)から76.7% (H25)に増。</li> <li>・市の観光施設入込数について年間290万人を目標とする。</li> <li>・橋梁長寿命化修繕計画における橋梁のうち修繕実施済み橋梁の割合を算出し、4.0% (H24末)から16.0% (H25末)に増。</li> </ul>			
----------------	--	--	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考					
	当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H23末)	最終目標値 (H25末)						
① 車道部幅員が5m以上確保されることで、冬期でも円滑で安全な走行が可能な道路延長比率。 (冬道安全道路整備率) = (有効幅員5m以上の延長) ÷ (総市道延長)	75.7%	76.3%	76.7%						
② 市の観光施設入込数 過去5年間の推移よりH16年度をピークに年々下降状況にあることからH20年度の290万人を下回らないように維持することを目標とする。	290万人/年	290万人/年	290万人/年						
③ 橋梁長寿命化修繕計画策定橋梁の修繕工事を進めることで、道路交通の安全性が確保される橋梁比率。 (修繕実施済み橋梁割合) = (修繕実施済み橋梁数) ÷ (橋梁長寿命化修繕計画策定橋梁数のうち優先的に修繕する橋梁数[50橋])	(H24末) 4.0%		(H25末) 16.0%						
全体事業費 合計 (A+B+C)	1,414百万円	A	1,397百万円	B	0	C	17百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	1.2%

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期
担当課で、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その結果を踏まえて今後の整備方針を検討するとともに、その要因を分析した。	平成27年度（整備計画期間の事業費完了期間の翌年度） 公表の方法 市のホームページによる公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H21	H22	H23	H24	H25		
22-A-1	道路	一般	酒田市	直接	—	市町村道	修繕	(他) 堤町両羽橋線外 手蔵田外	舗装修繕 L=19.3km	酒田市						666	
22-A-2	道路	雪寒	酒田市	直接	—	市町村道	雪寒	(他) 前川線外 前川外	防雪柵 L=2.7km	酒田市						402	
22-A-3	道路	一般	酒田市	直接	—	市町村道	修繕	(他) 新橋東西線外 新橋外	橋梁補修 N=5橋	酒田市						329	
小計（道路事業）															1,397		
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
合計															0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考			

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										H21	H22	H23	H24	H25		
22-C-2	計画・調査	一般	酒田市	直接	—	計画・調査	トンネル点検	トンネル点検 N=2箇所	酒田市						2	
22-C-3	計画・調査	一般	酒田市	直接	—	計画・調査	照明灯等点検	照明灯等点検 N=1,000基	酒田市						15	
										合計					17	
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考
22-C-2	道路交通の安全性を確保する上で、点検により現状の損傷具合等を把握することで、事前の修繕が可能となり、崩落等の突発的な事故を未然に防ぐことができる。															
22-C-3	道路交通の安全性を確保する上で、点検により現状の損傷具合等を把握することで、事前の修繕が可能となり、崩落等の突発的な事故を未然に防ぐことができる。															

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

- ・ 車道幅員が5m以上確保されることで、冬期でも円滑で安全な走行確保された。
- ・ 矢流川大平線、光ヶ丘一丁目1号線、光ヶ丘線、大野新田1号線、末広下通線外の現道拡幅、四ツ興野大宮線の新設、外山越線の視距改良、案内標識の設置等を行った結果、交通の流れもスムーズとなり、住民や観光客の通行性が向上した。
- ・ 橋梁の修繕工事を進めることで、道路交通の安全性が確保された。

II 定量的指標の達成状況	指標①冬道安全道路整備率	最終目標値	76.7%	目標値と実績値に差が出た要因	東日本大震災などによって資材単価や人件費が上昇したことに伴い整備目標を下回った。
		最終実績値	76.5%		
	指標②市の観光施設入込数	最終目標値	290万人/年	目標値と実績値に差が出た要因	平成21年度～平成24年度は映画「おくりびと」の効果などもあり目標を達成したが、最終年においては効果も落ち目標を下回った。
		最終実績値	288万人/年		
	指標③修繕実施済み橋梁比率	最終目標値	16.0%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	16.0%		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

3. 特記事項 (今後の方針等)

引き続き同社会資本整備による事業を行い、酒田市中心市街地へのアクセス改善と賑わいを創出に取り組むこととしている。

(参考様式3)

### (参考図面) 活力創出基盤整備

